



北陸新幹線アクションプラン

# 新幹線駅開業に向けた市の行動計画を策定しました

北陸新幹線飯山駅開業まであと5年あまり。市内でも開業に向けた工事が各所で進められています。

市では新幹線の効果を最大限に生かすことができるよう、駅機能や土地利用、まちづくり等についてのアクションプラン（行動計画）を策定しました。

## 北陸新幹線アクションプラン 概要版

### ■ 目 次 ■

#### ●はじめに

- ・新幹線アクションプランとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- ・新幹線プロジェクトの骨格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

#### ●新幹線機能の充実

- ・新幹線駅舎本体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- ・（仮）西口広場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
- ・（仮）東口広場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

#### ●駅周辺土地利用・新産業立地

- ・土地利用計画の策定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- ・駅西線・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- ・駅西田中地籍の土地利用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- ・駅前市有地の土地利用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

#### ●回遊性のあるまちづくり、観光施策・機能の充実

- ・計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
- ・広域観光連携の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

平成21年3月  
飯山市

## 新幹線プロジェクトの骨格

### 新幹線とは何か

- ① 12両編成（乗客約1000人）で、首都圏より2時間、北陸方面を1時間で結ぶ高速鉄道。
- ② 長期にわたり大量・高速旅客輸送効果をもたらす。市・周辺地域社会に構造的変化をもたらす影響力を持つ。

### 飯山駅の位置づけ

- ① 上信越高原国立公園の広大な大自然地域の玄関口。
- ② 素晴らしい景観・四季・水・空気や、未利用の土地、農産物等の多彩な資源に恵まれる。
- ③ 首都圏より最短で大自然に到達できる駅。

### 新幹線による効果

1. 観光人口の増…飯山駅を中心に、大自然を生かした魅力的な広域観光圏を形成し、回遊性のあるまちづくりを進め、国内外からの観光人口を増やす。
2. 企業立地による人口増…新幹線効果により、駅周辺および市内への企業誘致を進め、若者の定住人口を増やす。
3. Iターン・Uターン、交流による人口増…首都圏から最短で大自然に入れる地域として、首都圏住民へ新たなライフスタイルの場を提案・提供する。I・Uターン、二地域居住の場として定住・交流人口の増加を図る。

### 具体的な整備方針

- ① 新幹線駅機能の充実
- ② 駅周辺土地利用・新産業立地
- ③ 観光推進戦略

### ■具体的な整備方針

#### (1) 新幹線駅機能の充実

- ① 利便性、機能の充実
- ② 自然をコンセプトとした他の新幹線駅にはないインパクトあるデザインと整備
- ③ 駅前広場、周辺民有地を含め、統一的なイメージ形成（飯山の自然を生かした景観、市街地への回遊誘導）

#### (2) 駅周辺土地利用・新産業立地

- ① 駅西線
- ② 駅西田中用地への企業立地
- ③ 駅前市有地（3000㎡）の利用検討
- ④ 周辺地域の土地活用の検討

#### (3) 観光推進戦略

- ① まちなか観光（回遊性のあるまちづくり）
- ② 飯山市内観光
- ③ 広域観光連携



# はじめに

## 新幹線アクションプラン

飯山市では、北陸新幹線飯山駅開業の効果を最大限に引き出すことのできるよう、行動計画（アクションプラン）を策定しました。

市では、北陸新幹線飯山駅開業の効果を最大限に引き出すための要点を明確にし、展開する施策の事業費とスケジュールを盛り込んだ行動計画（アクションプラン）を策定しました。

策定に向けては、平成15年に「新幹線まちづくり市民会議報告書」を策定するなど、これまで市民の皆さんや専門家の意見を聞

きながら、駅周辺整備やまちづくり、広域観光等についての計画を協議。また昨年からは、副市長を中心に市の関係職員で横断的なプロジェクトチームを設置し、

①新幹線駅機能の充実、②「駅前・駅周辺の土地利用計画、新産業立地の基盤整備、③回遊性のあるまちづくり、観光施策・機能の充実、という3つの研究部会

で詳細を検討し、昨年11月にアクションプランの案ができました。

この案を近隣の関係市町村、新幹線工事を担当する鉄道・運輸機構、その他関係機関に説明し、意見・要望等の集約を行い、協議を経て、平成21年3月に正式なアクションプランとして策定しました。

# 新幹線アクションプラン 新幹線駅機能の充実

「新幹線駅機能の充実」に関する整備の概要をお知らせします。新幹線駅開業に向け、飯山市では区画整理事業や駅前整備、回遊性のあるまちづくりを行います。

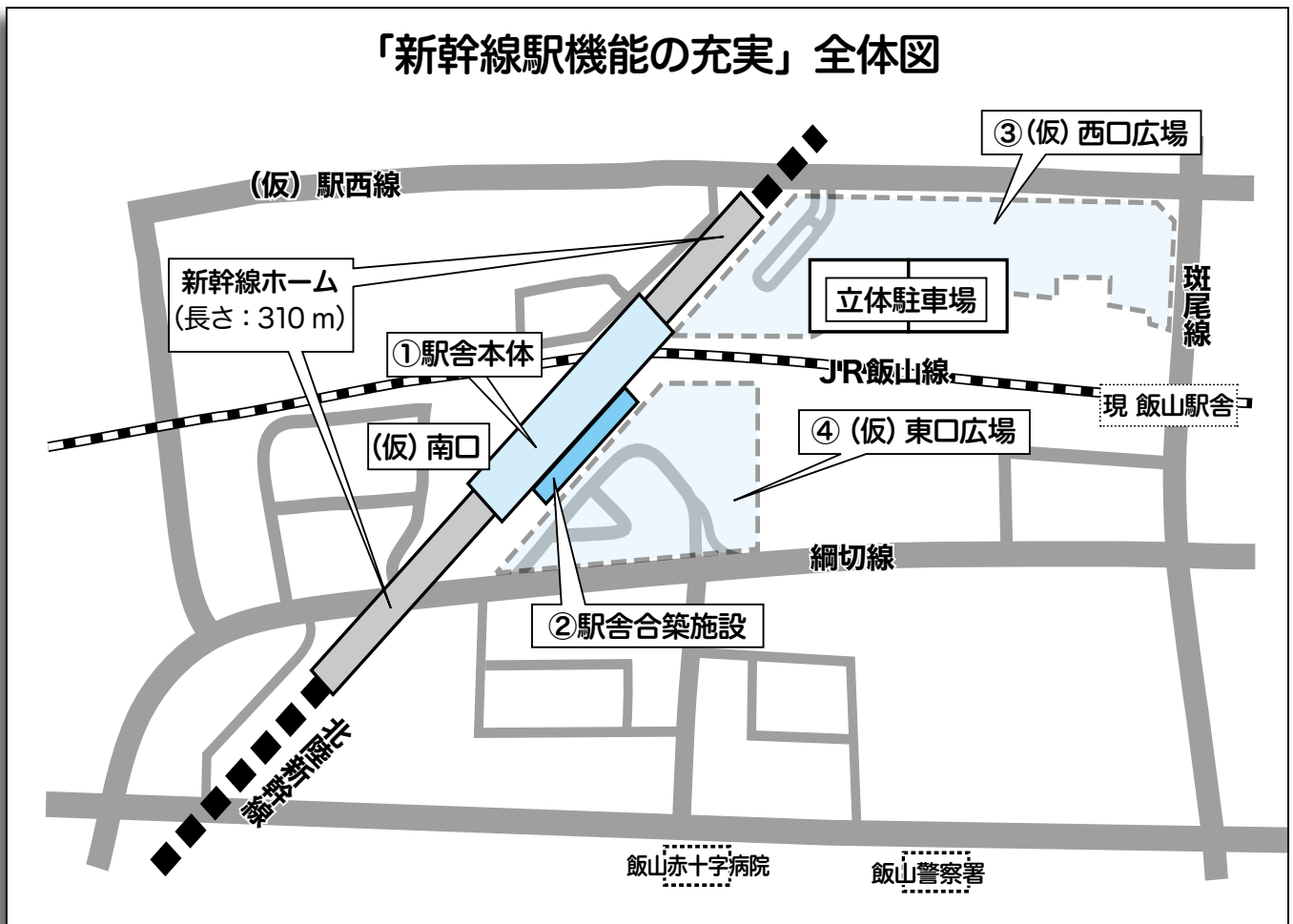
## ■整備の方向性

1. 他の新幹線駅にないものを目指す
2. 駅機能の利便性と周辺土地の有効的な利用を図る
3. 雪に強く、ランニングコストがかからない施設整備を行う

## ■整備の基本方針

コンセプト「豊かな自然」

## 「新幹線駅機能の充実」全体図

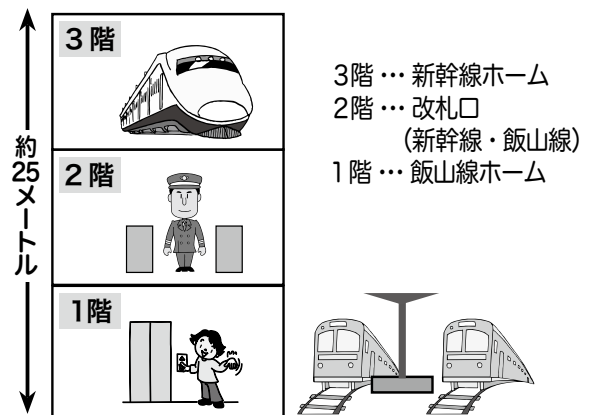


### ① 新幹線駅舎本体 (鉄道・運輸機構で整備)

新幹線新駅の規模は、延長 120 m の駅舎にプラットフォームを入れると 310 m の巨大な駅になります。また、在来線飯山駅を移設します。

構造は3階建・高さ約 25 m、2階に新幹線と在来線の改札口ができます。在来線ホームは1階、新幹線ホームは3階になり、1階から2階への移動手段は階段とエレベーターです。3階新幹線ホームへの移動手段としては、階段・エスカレーターおよびエレベーターがあり、1階の在来線ホームへの移動手段は、階段とエレベーターです。

### 新幹線駅舎機能イメージ





新幹線駅機能の充実

### ③ (仮) 西口広場

西口広場は駐車場・ロータリーなどを整備し市街地西部方面からの利便性向上、東口広場の渋滞軽減を図り、主に鉄道利用者が利用する広場として整備します。



●整備方針

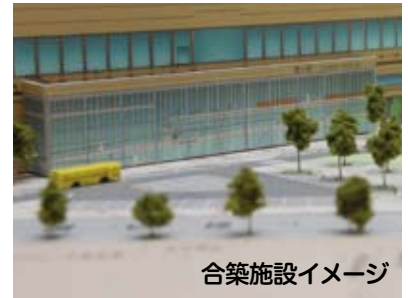
- ・駅まで送迎してもらい列車に乗る利用客、自家用車で来て駐車し列車に乗る通勤・通学等の利用客に対応したロータリー・駐車場を確保します
- ・立体駐車場は可能な限り駅舎の近くに整備します
- ・立体駐車場は拡張可能な構造とし、段階的に整備をしていきます
- ・降雪を配慮した施設整備を行います

●西口広場の機能、施設等

- ①ロータリー
- ②立体駐車場 (一次整備分・150 台程度)
- ③立体駐車場 (二次整備分・150 台程度)
- ④平面駐車場(200 台程度) ⑤駐輪場(90～120 台)・トイレ (立体駐車場内)・シェルター (バス、タクシーの乗降客を雨雪などから守る覆い)・融雪施設

### ② 駅舎合築施設

JR飯山線飯山駅を統合するほか、機能的で誰もが利用しやすい駅とするため、駅舎本体に次の機能を備えた施設を合築整備します。



●整備方針

- ・誰もが利用しやすいバリアフリー、ユニバーサルデザインの駅舎とします
- ・コンパクトでも、機能的で利便性の高い駅舎とします
- ・在来線飯山駅を新幹線新駅に移転統合します
- ・雪に配慮した機能整備をします
- ・周辺観光地への玄関口としての機能を強化し、近隣駅に比べ優位性を確保した駅とします
- ・地域の風景を活かす駅舎空間の創造をします

●駅舎合築施設の機能、施設等

- ①JR飯山線飯山駅の新幹線駅への移転統合
- ②改札のある駅舎2階への移動手段となるエスカレーター ③西口広場からの連絡施設として階段・エレベーター ④観光案内所の設置 ⑤休憩・待合室 ⑥トイレ (1階) ⑦コインロッカー ⑧物産スペース、喫茶室、自動販売機、ATMのスペースの確保

### ④ (仮) 東口広場

上信越高原国立公園の高速交通網の拠点として整備する東口広場。広域観光の玄関口となるため、地域の第一印象に大きく影響を与える空間を整備します。

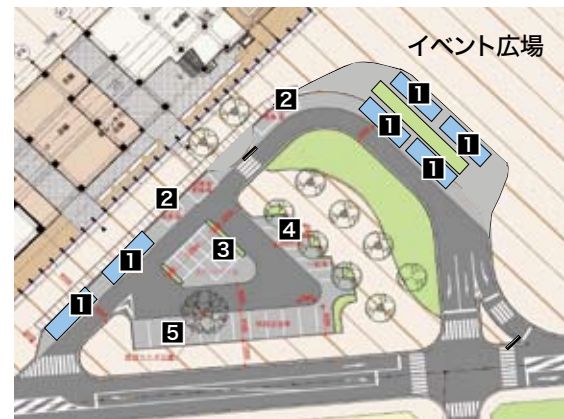
●整備方針

- ・交通広場はバス・タクシーなどの交通結節点機能を考慮した整備を行います
- ・観光客や市民が交流できるイベント広場を整備します
- ・豊かな自然景観を象徴する美しい山並みとの調和を図ります。



●東口広場の機能、施設等

- ①交通ロータリー
- ②バスバース (6 台・1)
- ③タクシーバース (3 台・2)
- ④タクシープール (8 台・3)
- ⑤一般車駐車スペース (6 台・4)
- ⑥旅館送迎車スペース (12 台・5)
- ⑦シェルター、駐輪場 (240～270 台)、イベント広場

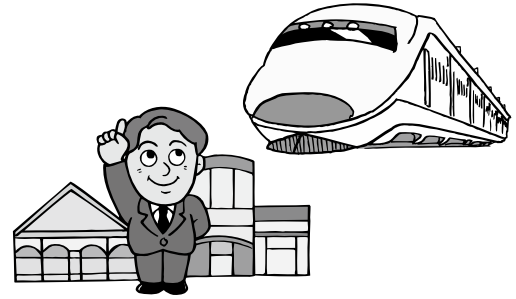


※左図中の角数字は上記「東口の機能・施設等」に対応しています



新幹線プロジェクト

# 駅周辺土地利用・新産業立地



駅前市有地の整備イメージ

新幹線飯山駅の周辺地域は、新幹線開業による経済的効果が発揮される場として注目を受けている地域であり、今後、より高度な土地利用を進めていくため新たな土地利用計画の策定が

### 土地利用計画の策定

北陸新幹線のもたらす効果  
北陸新幹線は当地方と東京および金沢方面とを結び、人、物などを短時間に大量に運ぶ交通機関です。新幹線の開通は、企業進出による雇用の拡大、観光客の流入による商業の発展、新幹線通勤による居住者の増加など、様々な経済的効果をもたらすものと期待されています。

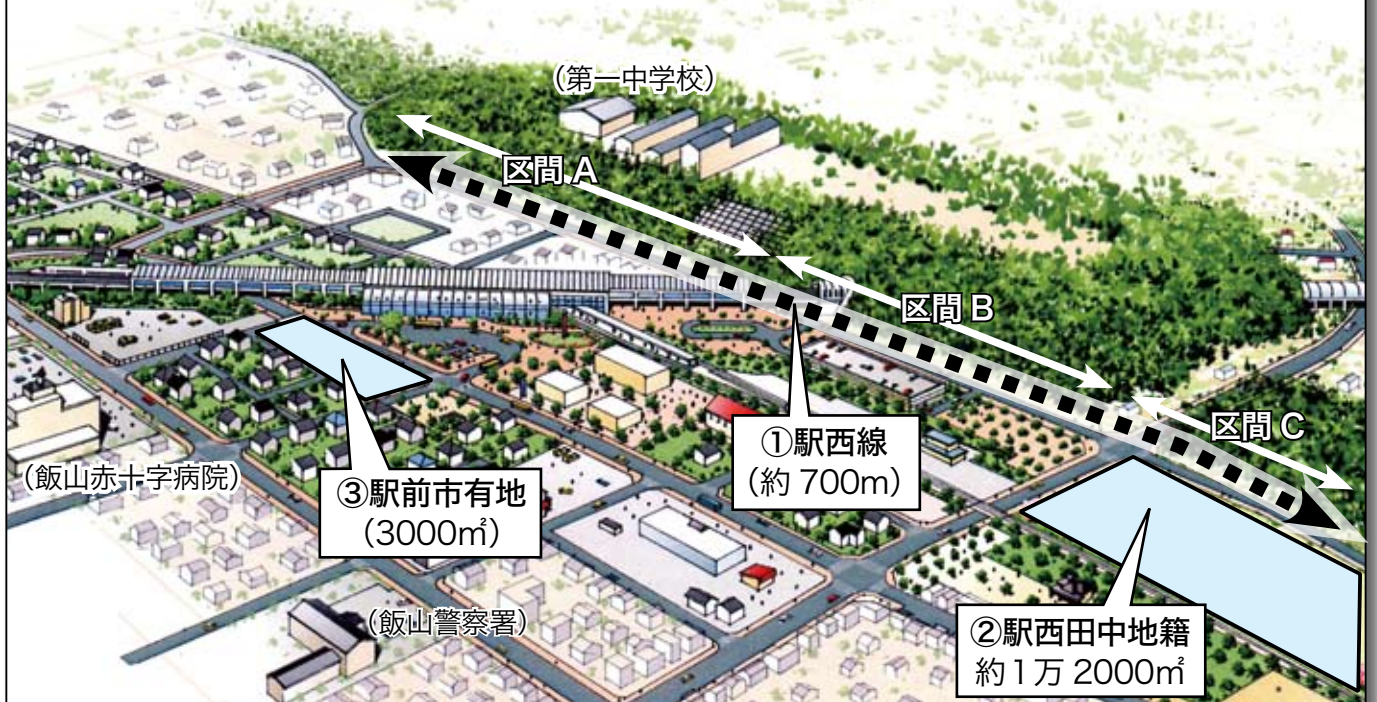
【検討を行った①③の箇所の検討内容は次のページをご覧ください】

必要となります。駅周辺の土地利用の実態を把握する必要があることから、新幹線駅を中心とした半径約1キロの範囲の調査を行いました。(具体的に検討を行った場所は下表の9か所です) 検討を行った9か所のうち、駅西線、駅前市有地、駅西田中地籍の3か所については、具体的な活用方針等を検討しました。

### 土地利用を検討する場所

- ①駅西線 ②駅前市有地 ③駅西田中地籍  
→具体的な活用方法・整備手法・費用を検討  
(内容は次ページをご覧ください)
- ④雪と寺の町シンボル広場 ⑤駅前民有地
- ⑥第一中学校 ⑦市営金山住宅団地 ⑧金山・北畑付近の農地 ⑨北畑交差点周辺農地  
→現段階では課題の整理に留め、今後必要に応じ検討していくこととする。

## 駅前・駅周辺の土地利用計画、新産業立地の基盤整備イメージ図





駅前・駅周辺の土地利用計画、新産業立地の基盤整備

# 土地利用の検討内容

## ① 駅西線

駅西線については、新幹線駅西口へのアクセス道路として、また周辺の土地利用を進めるため駅西側の丘陵のふもとに既存道路を活用しながら、下記のとおり3区間に分けて整備します。

**(ア) 新幹線駅西口から柝の浦入口まで (区間A)**

金山、松倉方面からの駅西口へのアクセス道路として現道を拡幅・整備します。

**(イ) 県道斑尾線交差点から新幹線駅西口まで (区間B)**

駅西口への進入路として、新幹線駅・在来線駅利用者の利便性を考慮して道路を新設・整備します。

**(ウ) 県道斑尾線交差点から西敬寺方面 (区間C)**

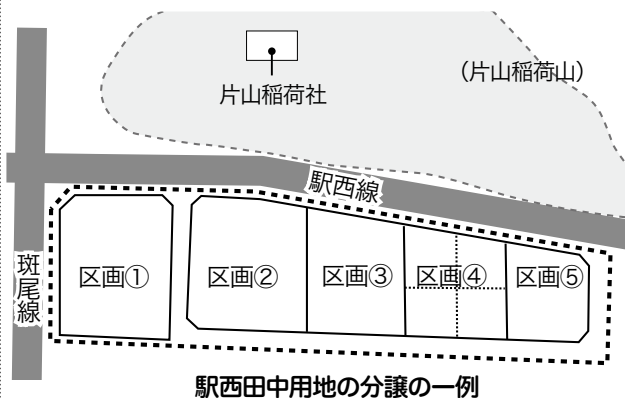
駅西田中地籍の土地を企業向けに分譲するため現道を拡幅・整備します。

## ② 駅西田中地籍の土地利用

駅西田中地籍については、土地の持つ特長からソフト産業などの企業誘致向け分譲用地（大規模な工場は想定しない）として位置づけます。用地造成は進出を希望する企業との協議により進めていきます。

●企業用分譲地計画 (案)

- ◇分譲地面積…約1万1000㎡（緑地部分を除く）  
新幹線駅より徒歩5分
- ◇1画地を2000㎡前後で設定
- ◇外周に区画道路（幅6メートル）を配置することで企業要望により1画地を分割分譲することも可能。また区画を集約することも可能
- ◇南側幹線道路（斑尾線）や東側JR構内との間に緩衝緑地を設けることにより、分譲地内の環境を整える



## ③ 駅前市有地の土地利用

駅前市有地（約3000㎡）は、新幹線駅前という優位な立地条件を生かし、商業を営む者が進出できる用地とします。市ではこの土地を駅前空間の重要な場所として位置づけ「土地の細分化・転売による乱開発防止」や「良好な景観の創出」・「適正な業種の立地」のため、当面、土地を売却するのではなく土地所有者として開発に係わっていくこととします。一定程度の条件をつけながら、市内外の出店希望者に土地の貸付を行い駅前商業の発展を促します。

●土地利用例



**ケース1 小規模店舗分散型土地利用+駐車場**  
商業規模により店舗の規模を各々自由に設定することができる。



**ケース2 中規模店舗集合型土地利用+駐車場**  
商業者が出資しあいながら一つの店舗内で営業する。

新幹線プロジェクト

回遊性のあるまちづくり、  
観光施策・機能の充実

計画策定の趣旨

北陸新幹線飯山駅開業は、都会からの旅行者等、交流人口の増加による地域の発展が期待できます。一方、移動時間の短縮により、日帰りや通過客が増え、宿泊客が減る危険性も考えられます。

駅の開業を好機として地域の活性化を図るためには、地域が一丸となって観光まちづくりを行い、魅力あるまち、訪れたいまちを創出することが重要となります。

そこで飯山市では、市民、観光事業者、行政が協働し地域資源を核とした特色ある観光まちづくりを進めるための計画を策定します。

主な対象、目標を設定

より効果的に魅力あるま

まちづくりの目標

- ①回遊性のある「まちなか観光」  
観光の核を創出し、飯山の四季を感じさせる花の演出により回遊性のある「まちなか観光」を目指します。
- ②回遊性のある「飯山市観光」  
観光の核を磨き、観光商品の充実により回遊性のある「飯山市観光」の展開を目指します。
- ③広域観光連携の取り組み  
上信越高原の観光の玄関口として、広域観光の連携強化を推進します。

ちづくりを進めるため、新幹線を利用し飯山を訪れるお客様の主な世代・性別等を想定し、取り組むべき課題を整理しました。

検討の結果、現在の旅行形態のほとんどは中高年の女性が多いと分析。このこ

とから主な誘客対象として「都市住民、中高年、特に女性」に、また近年増加の兆しが見える「外国人」も想定することとしました。

また、「地域ブランドの構築をすすめる、住民の誇りを醸成するとともに地域の経済効果を高める」ことを主としたまちづくりの目標を設定しました。

広域観光連携の取り組み

飯山市周辺の上信越高原国立公園には、自然を生かした豊富な観光資源がありますが、各市町村単独の観光商品では、新幹線駅として並ぶ金沢、富山、長野等の観光地と比較したときに埋没してしまう恐れがあります。

飯山市ではこれまでに、近隣市町村に対し、このアクションプラン案の説明を行い、広域観光連携についての取り組みを呼びかけてきました。

今後は「広域観光連携協議会」の発足を視野に入れ、地域一丸となって魅力ある観光振興に取り組んでいきたいと考えています。

「回遊性のある飯山市観光」イメージ

